



IBMの新システム「iDataPlex」をサポートする アボセントのサービスプロセッサ管理技術

アボセント、IBMと共同でWeb2.0 企業のサーバ管理費用を削減

アボセントジャパン株式会社(本社: 東京都中央区、代表取締役社長: 栗倉豊)は、2008年5月27日、Avocent独自のサーバプロセッサ管理技術を、IBMの新システム「iDataPlex」の一部として日本国内でも発売予定であることを発表しました。これは、本年4月のアボセントコーポレーション (NASDAQ: AVCT)の発表を受け、インターネット運用を行うデータセンタの大規模サーバ増強という難題に直面しているWeb2.0企業向けに、IBM iDataPlexが、費用対効果とエネルギー効率に優れたサーバ管理を実現するというものです。IBM iDataPlexは、アボセント MergePoint® 5300 サービスプロセッサ・マネージャをサポートしています。

MergePoint 5300は、サーバ電源のリモート制御とハードウェアの状態監視を一元管理することで効率化し、コスト削減を支援するように設計されており、サーバに内蔵されているサービスプロセッサの能力を最大限に引き出します。IBMのiDataPlexはカスタマイズが可能で、低価格かつ相互運用可能なラックシステムです。オープンソースソフトウェアを使用してコストを抑えるとともに、業界の管理標準をサポートしています。また、冷却方式と性能面での革新的な設計を特徴としています。

「新たなソリューションにアボセントの技術を提供しIBMとの関係を継続できるのはとても光栄なことです。当社のMergePointソリューションは、大規模化・複雑化したデータセンタにおいて、コスト削減とサーバ管理の課題への取り組みを支援します。」とアボセント取締役副社長兼ゼネラルマネージャ、デイブ・ペリーは述べています。

アボセント MergePoint 5300

MergePoint 5300は、業界の各種管理標準をサポートしています。ハードウェアレベルでのサーバ管理のための、以下のような共通方式を提供します。

- インテリジェントプラットフォーム管理インタフェース(IPMI)。リアルタイムのハードウェアの監視や電源制御などの“サーバ内部の”タスクを実行する、標準化された方式。
- サーバハードウェア用のシステム管理アーキテクチャ/コマンドラインプロトコル(SMASH/CLP)。標準のコマンドラインインタフェース。
- 管理のためのウェブサービス(WS-MAN)。離れた場所から機器にアクセスして管理情報を授受できる、システムの共通方式。
- 標準情報モデル(CIM)オブジェクトマネージャ。標準化された管理情報と合わせて情報モデルを使用し、管理対象デバイスに関する詳細の抽出、まとめ、伝達をシステム間で常時行います。

SMASH、WS-MAN、CIMは、分散管理タスクフォース(DMTF, Inc.)が策定した標準規格で、アボセントはDMTFのリーダーシップレベルのメンバとして同団体に積極的に貢献しています。アボセントはまた、IPMIサーバのファームウェアのサプライヤでもあります。

アボセント MergePoint 5300 は、サーバ内蔵のサービスプロセッサを自動的に検出し、温度・ファンのスピード・電力消費状況・電圧の測定などサーバの状態監視をリアルタイムで行ないます。SMASH インタフェースも備えているため、管理者はどのメーカーのサーバであっても CLI が変わらないというメリットを享受することができます。CLI が変わらないため、SMASH を使用することで管理スクリプトの継続的なトレーニング・教育・サポートの費用が削減できます。※電力消費状況の監視は、ベンダがサポートしている場合に可能。

「アボセントが最近行ったアンケート調査では、サーバプロセッサを内蔵したサーバを保有していると答えた回答者は 90%を超えています。アボセント MergePoint 5300 は、管理アクセスを検出し、ラック内の安全な 1 ヲ所へとアクセスを一元化することで、複雑かつ高性能な環境で何千台あるいは何十万台ものサービスプロセッサをシステム管理者が管理することが可能になります。」(ペリー副社長)

アボセント MergePoint 5300 サービスプロセッサ・マネージャは、米国では本年 6 月までに販売開始予定です。

アボセントは 2004 年、IPMI をサーバプラットフォームに取り込み、ベンダに依存しないサービスプロセッサ管理技術を導入した初めての企業となりました。今日では、アボセント製の IPMI サーバは 15 秒に 1 台のペースで全世界に出荷されるほどの台数を誇ります。また 2005 年には、IPMI および独自技術の両方の管理機能と、SMASH ゲートウェイ機能の提供を行うため、MergePoint ファミリの導入によりサービスプロセッサ管理を拡張しました。アボセントの DSVIEW[®] 3 管理ソフトウェアとともに使用した場合、MergePoint は、データセンタおよびリモートオフィスにある、種類も設置場所もばらばらな IT 設備の管理をよりシンプルにするために、サーバアクセスと制御を、安全な帯域外プラットフォームへと一本化します。

「iDataPlex には、ウェブ 2.0 型のコンピューティングに関する IBM のイノベーションが盛り込まれています。またお客様に対しては、急速に拡大していくデータセンタの省サイズ化と簡素化を支援していきます。MergePoint ソリューションによりデータセンタの構成をシンプルにできますから、アボセントには省サイズ化と簡素化の目標達成にひと役買ってもらっています。当社は、すぐに使用でき、お客様に付加価値を提供する iDataPlex 向けの技術を体系的に作り上げていく、アボセントのような技術リーダーに注目しています。」

と、IBM システム・技術グループのモジュールシステム責任者、ジム・ガーガン氏は述べています。

価格および購入について

iDataPlex は米国およびカナダでは 6 月に、その他世界各国では年末までに発売の予定です。また、iDataPlex は注文生産型のソリューションです。構成や価格の詳細については、IBM の営業担当者へお問い合わせください。

アボセントについて

アボセントは、帯域内／帯域外の通信を集中化させたハードウェアとソフトウェアを通して、24 時間週 7 日稼動する重要な IT 環境の運用コストの削減、管理の簡素化、可用性向上を実現する IT インフラ管理ソリューションを提供しています。詳しい情報については次の Web サイトをご覧ください。www.avocent.com

将来予想に関する記述 (Forward-Looking Statements)

本プレスリリースには、1995 年の「米国証券民事訴訟の改革法」に定義された、将来予想に関する記

述が含まれています。記述には、新システムや管理ソリューションの開発、ならびに当該の市場または他の新規市場への、アボセントの成長と展開に関するものが含まれます。こうした将来予想に関する記述は、一般的な経済情勢に関するリスク、将来にわたる製品の需要、販売、費用に係るリスク、製品設計活動、新製品／テクノロジーの導入に伴うリスク、知的財産所有権の取得と保護に関するリスクなど、発表内容とは実質的に異なる実績を生じ得るリスクと不確実性の影響を受けます。異なる営業／財務結果を生じ得るその他の要因については、米国証券取引委員会へ提出したアボセントの報告書 (Form 10-K、Form 10-Q) に記述されています。

Avocent および Avocent のロゴ、DSView は、Avocent Corporation または系列会社の登録商標です。その他すべての商標の所有権は、各所有者に帰属します。

アボセントについて

アボセントは、全世界の企業を対象にIT運用とインフラ管理面のソリューションDSシリーズを提供しています。ハードウェアとソフトウェアを統合させたインバンド／アウトオブバンドでの中央集中管理を通して、企業のコスト削減と複雑なIT環境管理の簡素化をサポートしています。詳しい情報については以下のWebサイトをご参照ください：

www.avocent.com

アボセントジャパン株式会社は、Avocent Corporation の 100%出資の日本法人で、2002 年に日本法人を設立しました。日本では、販売代理店を中心に広くビジネスを展開しています。

詳しい情報については以下のWebサイトをご参照ください：www.avocent.co.jp

###

この記事に関するお問い合わせ先：

アボセントジャパン株式会社 マーケティング 小野

電話番号: 03-3551-1741 FAX番号: 03-3551-1742 Email: atsuko.ono@avocent.com

〒104-0033 東京都中央区新川 1-17-25 東茅場町有楽ビル本館 5F